小学６年生を対象に実施　　越前市白山小学校

国語・算数の力と学習や生活の様子

～『R８全国学力・学習状況調査』結果から～

今年度は、国語・算数の全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果および分析を受け、白山小学校の子供たちの学習と生活の様子をまとめました。

★国語について★

🌸→特に良いところ　▲→伸ばしたいところ

１．学習指導要領の内容における結果から

🌸すべての内容において、県・全国平均を大きく上回り、特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、県・全国平均を大きく上回る高い正答率でした。「知識」と「読む力」が十分に発揮されたといえます。

【国語の平均正答率】

全国…　60.9%

特に正答率が高かった問題

🌸**言葉の特徴や使い方に関する事項**…学年別配当漢字に示されている漢字を文の中で正しく使うことがよくできており、県・全国平均を超える高い正答率でした。また、文章の種類とその特徴について理解することは 100%の正答率でした。

🌸**読むこと**…目的に応じて、必要な情報を見つけたり、文章を読んで理解したりしたことに基づいて自分の考えをまとめたりすることがよくできており、県・全国平均を超える高い正答率でした。

課題と改善策

▲**書くこと** …引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して答える記述式の問題に課題が見られました。正答の条件は４つあり、その条件をすべて満たす必要がありましたが、約半数の児童がで全ての条件を満たして書くことはできませんでした。どんな考えを説明するのか、どの部分を引用するのか、引用部分と考えは整合しているのかなど、自ら構成して文章をまとめる力に課題があると言えます。

➳　【書く力】を高めていくために、目的をもって情報を集めたり、考えが伝わるように構成を考えたりするなど、一人で解決できる力を全ての子が身に付ける必要があります。単なる読解に留まらず、字数や使用する語句などの条件を設けて、あらすじをまとめたり自分の考えをまとめたりするなど、「書く活動」を各教科で継続的に取り入れていきます。教師も、“子どもが、問いを咀嚼し、自分の考えをまとめる”ために、急がせない配慮を心がけていきます。

また、本を読むときには、

●「言葉の意味の正しい理解」●「文と文のつながりを考える活動」

●「キーワードを見つけ出す活動」●「人物の気持ちを表す表現を見つける活動」

●「資料やグラフから必要な情報を読み取る活動」　等を意識して取り入れていきます。



★算数について★

🌸→特に良いところ　▲→伸ばしたいところ

Ⅰ.学習指導要領の領域における結果から

【算数の平均正答率】
全国…　56.4%

🌸調査のあった５つすべての内容において、県・全国平均より高い正答率でした。特に、「図形」で力を発揮していました。

特に正答率が高かった問題

🌸**数と計算**…異分母の分数の大小を判断し、その理由を記述式で答えたり、単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉えたりすることがよくできていました。

🌸**図形**…立方体の体積を計算によって求めたり、直方体の箱の形を構成する面について考えたりすることがよくできており、どちらも 100%の正答率でした。

課題と改善策

1 (3)
1 ㎤の立方体が 36 個あります。
36 個をすべて使って、高さが 4 ㎝の直方体を１つ作りました。その直方体の体積は何㎤ですか。

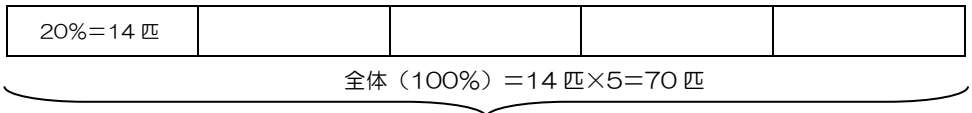
▲**図形**…体積の意味を理解しているかどうかをみる問題で課題が見られました。前問で立方体の体積の計算による求め方については、100%の正答率でしたが、体積の意味については約半数以上の児童に躓きがみられました。問いの中で「高さ」の指定はあったものの、公式の「縦」「横」がイメージできず、正しいアプローチができなかったと思われます。

➳　形が変わっても、１㎤のブロックが 36 個あるという「本質」はかわりません。体積の導入にあたっては、単位や測定の意味を基に、面積の学習と同じように、単位の大きさを決める、その幾つ分として数値化して捉えることができることを大切に指導していきます。また、立体の形が違っても体積は同じであることを、ブロックなどの具体物を用いて比較するなどの活動を通して、視覚的に操作する経験を増やし、理解を深めていきます。

2 (2)
イシガメは 14 匹います。イシガメの数は、動物園全体のカメの数の 20%です。この動物園全体にはカメが何匹いますか。

▲**変化と関係**…百分率で表された割合と比較量から基準量を求めることに課題がみられました。20 や 0.2、80 や 0.8 を用いて立式するなど、百分率の意味についての理解が十分ではないと考えられます。

➳　(基準量)×(割合)＝(比較量)などの言葉の式から立式を急がせるよりも、まずは線分図や関係図を描いて、児童が自ら基準量、比較量、割合を書き込み、それらの数量の関係を捉えることができるように指導を心がけます。また、「数量の全体像」を捉える習慣づけを大切にします。そこから、単なる割り算の処理ではなく、「20%の塊が５つ集まれば 100%になる」という関係性の可視化も取り入れていきます。



また、百分率は、基準量を 100 としてそれに対する割合で表す大変身近な方法であり、実生活の中から児童の興味・関心が高まる数値を用いて理解を促すことも大事に指導していきます。

●学習や生活の様子について●

🌸→よい傾向　◆→心配な傾向

《家庭や地域に関すること》

🌸早寝・早起き・朝ご飯を意識した生活ができています。
🌸自分が住んでいる地域のことについて関心を持ち、自分のできることで関わっていきたいと思っている児童が多くいます。
🌸１日当たりの読書の時間が長く、図書室へ行く回数も多い傾向にあります。
◆土日を含め家庭での学習時間が、全国・県の平均と比べて少ない傾向にあります。
◆土日を含め、家庭での SNS や動画視聴が長い傾向にあります。
➳**主体的な学習を促し、家庭での過ごし方を見直す機会を設けていきます。時間をコントロールできた際の心地よさを実感させたり、マイルールを自分で決めさせたりすることを促していきます。また、保護者や家庭への働きかけも継続していきます。**



《学校に関すること》

🌸多くの児童が、学校が楽しいと思っています。
　また、友達が困っている時に助けてあげることは大事なことと考えています。
🌸いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っています。
🌸今回の全ての記述式問題で、全員が「最後まで書こうと努力した」と答えています。
◆自分と違う意見について考えるのは楽しいと考える児童の割合が、全国・県の平均と比べて低い傾向にあります。
➳**話し合い活動を充実させ、多様な解決策や考え方を受け止めることのよさを学ぶ機会をつくります。「否定された」、「自分が間違っている」と感じたり、「説得した人の勝ち」と捉えたりするのではなく、「多様な考えを知っておくと得になる」という実利的な視点に関心が向くように支援していきます。また、正解がないテーマを選び、「相手の言うことも一理ある」と感じられるような話し合いの機会を設定していきます。**

《自分自身に関すること》



🌸多くの児童が、「自分にはよいところがある」と思っています。
🌸多くの児童が、普段の生活の中で幸せな気持ちを感じています。
🌸「将来の夢や目標を持ち、人の役に立つ人間になりたい」と思っている児童の割合が高い傾向にあります。

【学力面との関係で分析すると】



　次のように回答した児童ほど正答率が高くなっていることがわかります。
◇自分には、よいところがあると思っている。
◇学習内容や目的をしっかり理解して、効果的な ICT 機器の活用ができている。
◇学校での学習は、現在や将来にわたって役に立つものと考え、意欲的に学習に取り組んでいる。